

新潟大学 倫理審査委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	ALS-FTD におけるシナプス病理
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	2001年1月1日から2022年12月31日の間に新潟大学脳研究所病理学分野で病理解剖され、筋萎縮性側索硬化症(ALS) / 前頭側頭型認知症(FTD)-TDP と病理診断された患者さんと、脳疾患を認められなかった患者さんのうち、組織が同研究所で保存されている患者さんが対象になります。筋萎縮性側索硬化症(ALS) / 前頭側頭型認知症(FTD)-TDP の患者さん 30 例、脳疾患を認められなかった患者さん 20 例を対象といたします。
③ 概要	病理解剖時に凍結保存している脳組織の一部を用いて、様々な方法を用いて脳組織の超微形態を検討し神経疾患を持たない患者さんと比較解析を行います。対象となるご遺族様におかれましては、本研究にぜひともご協力いただきたくお願い申し上げます。なお、承諾されないという場合は、下記「11 お問い合わせ先」までご連絡ください。承諾されないというご判断は尊重され、ご遺族様が不利益を被ることはありません。
④ 申請番号	C2023-0016
⑤ 研究の目的・意義	脳内の神経細胞をつなぐシナプスは分子組成の異なる多種類の単位から構成されており、空間的・時間的な多様性を有しています。そのパターンを「シナプトーム構造」と呼びます。本研究では、ALS や FTD-TDP におけるシナプトーム構造を明らかにするためにシナプトーム・マッピング技術を用いた研究を行います。具体的には超微形態の観察のため、超解像顕微鏡法、Expansion Microscopy 法、光顕・電顕相関顕微鏡法などの先端的イメージング技術を活用します。本研究により、ALS や FTD-TDP の患者脳におけるシナプスレベルでの変化、特に病態の早期における変化を捉えることが出来れば、より正確かつ感度の高い診断や前駆状態の検出につながる知見となる可能性があります。
⑥ 研究期間	倫理審査委員会承認日から 2026 年 3 月 31 日まで
⑦ 情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	新潟大学脳研究所病理学分野のスタッフにより、病理解剖にて採取した脳組織、及び付随する患者さんの情報(年齢、性別、臨床診断名、罹病期間)を利用します。凍結・ホルマリン固定。グルタール固定の脳組織とそれに付随する情報は、個人が特定できない状態で、東京大学及びエジンバラ大学に提供され、同大学において超微形態の観察を行います。得られた画像情報を共同研究機関に提供する可能性があります。
⑧ 利用または提供する情報の項目	病理解剖にて採取され、保存されている凍結・ホルマリン固定。グルタール固定組織(脳)、患者さんの情報(年齢、性別、臨床診断名、罹病期間)
⑨ 利用する者の範囲	新潟大学および以下の共同研究機関等で利用いたします。

	新潟大学 脳研究所病理学分野 (責任者 同分野教授 柿田明美) 東京大学大学院医学系研究科神経細胞生物学教室 エジンバラ大学
④試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学 脳研究所病理学分野 柿田明美 東京大学 神経細胞生物学分野 岡部 繁男 エジンバラ大学 Seth Grant
④お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：新潟大学 脳研究所病理学分野 氏名：柿田明美 Tel：025-227-0633 E-mail：kakita@bri.niigata-u.ac.jp